



令和元年7月17日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：斉藤、海老原、手嶋、今野

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより

148号

7月の月例会が開催されました

7月1日(月)に月例会が開催されました。昨年は6月の下旬には梅雨明けしましたが(過去68年中で一番早かったそうです!)、今年の梅雨明けはいつ頃でしょうか。真っ青な空とセミの声が待ち遠しいような気がしますね。

手賀沼と幻のオリンピックについて

7月9日から杉村楚人冠記念館で企画展「嘉納治五郎と手賀沼 幻の東京オリンピックをめぐる」が開催されます。企画展では杉村楚人冠と嘉納治五郎の関係が中心ですが、月例会では手賀沼へのボート競技の誘致や、町の関わりなどについて今野より説明しました。

●手賀沼と幻のオリンピックについて ◎新発見の資料!

今回、旧井上家住宅の資料で新たな発見がありました。井上家の資料は目録化されており、総資料約18,000点のうち、15,000点くらいが紙資料です。その中から7点、オリンピック関係の資料が出てきました。

井上家は手賀沼の干拓を進めた家です。それがなぜ、手賀沼をオリンピックの競技場にするという、いわば正反対のイベントに力を貸したのか。そこには井上家13代目当主、井上武の存在に理由があります。

◎井上武を取り巻く人々

井上は東京帝国大学時代、漕艇部に所属していました。漕艇部のOBである日本漕艇協会理事で1928年のオリンピックの際監督を務めた郷隆や、日本漕艇協会役員で1932年・1936年のオリンピックで監督を務めた東俊郎などとも関わりがありました。彼らは漕艇協会の中心人物でした。

◎我孫子とオリンピックの関わり(時系列)

昭和11年7月31日、東京オリンピックの開催が決定します。8月2日の『千葉読売』の新

聞記事には、明治42年からIOC委員を務めている嘉納に、染谷正治我孫子町長などが祝電を送ったことが書かれています。記事には嘉納の言葉として「組織の委員としては手助けできないが、嘉納治五郎個人としては、我孫子のためにできる限り協力します」とあります。



昭和12年1月20日、我孫子が正式にボート競技場として立候補しました。翌日の『千葉読売』には、交通が便利で他の候補地の半額で済むため非常に有望視されている、とあります。

この日、染谷から井上に手紙が届きます(資料1)。染谷は、ボート競技を誘致するにあたって、郷を直接訪ね陳情を行ったところ、井上と郷が知り合いだということを知った。については誘致に協力してもらえないかという内容でした。

井上は帝大漕艇部の先輩後輩というだけでなく、郷が社長を務めていた日華生命の代理店も経営していました。この資料から、手賀沼への競技場誘致の中心が我孫子町長だったことや、漕艇部OBのつながりが強かったことが読み取れます。

1月30日には、漕艇競技場委員が手賀沼へ視察に訪れました。翌日の『千葉読売』では委員は大乗り気、と書かれています。全国版の『読売新聞』では望み薄となっており、かなり温度差があることがわかります。

しかし、2月10日の第8回組織委員会で、漕艇・ヨット競技場の適地について、第一候補は戸田、手賀沼は第二候補と報告されました。我孫子が立候補する前、候補とされていた横浜を抑えての決定でした。

3月15日、井上あてにやはり帝大漕艇部OBである砂原宣雄から手紙が届きます(資料2)。ここでは前述

した漕艇協会の中心人物、東に面会しボートコースについて尋ねたところ、お金さえあれば戸田でいきたい意向だと書かれています。我孫子がコストを抑えられる（約40万円）のは、自然を活かしてのコースとするためであり、競技として考えれば新たに国際規格に則ったコースを一から掘って建設した方がいい。ただし問題はお金がかかること（189万8000円）で、予算が認められなければまだ望みがあるという内容でした。

もし、我孫子にボート競技が誘致できたとして、コースはどのように設定するつもりだったのでしょうか。



←色分けされた
コース地図
(高田氏所蔵)

5月5日に染谷から漕艇協会に出された「オリンピック漕艇競技場候補地概要」では、スタンドを今のアピスタ付近に置き、高野山からスタートして若松を通り、ゴールが根戸新田付近の予定だったようです。スタンドまでは駅から10分程で、アクセスもよく、我孫子を上手く使ったコース設定でした。

5月12日の常務委員会で、ボート競技は戸田に決定ということまで話が進みますが、嘉納から、「本当に大丈夫なのか、再考せよ」と待ったがかかります。翌13日、井上あてに平賀平作我孫子町助役より手紙が届きます（資料3）。

嘉納から電話があり、染谷が明日東京で会うことになった。ついては、同行をお願いしたいという内容で、染谷が多忙のため、平賀が代筆したようです。嘉納の名が出てくるのはこの手紙のみです。嘉納も誘致に関わり、水面下で動くなどして我孫子に配慮していたことがわかる貴重な資料です。

しかし5月18日の第15回組織委員会で、ボート競技は戸田に正式に決定されます。

5月24日、井上あてに染谷から礼状が届きます（資料4）。ここには2通入っていました。1通は井上へのお礼、もう1通は染谷あて日本漕艇協会から却下理由等が書かれた書簡です。原本もコピーでお渡ししてあります。お時間のある時

にぜひ読んでみてください。

◎今回の資料からわかったこと

- ・手賀沼誘致の際の水面下での動き
- ・干拓を行っていた井上家と我孫子町の関係が険悪なものでなかったこと（我孫子の発展のため、誘致に協力してくれたこと）
- ・嘉納治五郎が誘致に関わったこと（それまでは関わった、という話はあっても資料として見つかっていなかった）

すべてが幻に終わってしまった昭和15年の東京オリンピックですが、誘致に動いた人々の尽力など、幻でなかったものもあります。今回ご紹介した資料は、企画展でも展示していますので、ぜひご確認ください(*^-^*)

連絡事項

- ・竹灯籠の夕べの日程が決定しました！

11月1日（金）と2日（土）です。

※月例会では8日（金）・9日（土）とお伝えしましたが、開催イベント等の都合により1週間開催が早まりました。8月の月例会でも改めてお知らせします。

- ・今年度の研修会が決定しました！

12月3日（火）です。行程は、茨城県つくば市の矢中の杜・国指定史跡の平沢官衙、稲敷市の大日苑となります。矢中の杜は昭和初期の近代和風住宅、大日苑は江戸崎入干拓の生みの親である植竹庄兵衛が昭和14年に建てた住宅で、両施設ともNPOや保存会の方がガイドをしてくださいます。平沢官衙はもちろん、我が辻先生によるガイドです！

これらの施設については、研修会が近づくころ月例会で改めてご説明させていただきます！まだ先ですが、ぜひとも皆さま予定を空けてお待ちください！

次回は・・・

令和元年8月1日（木）午前9時30分

から旧村川別荘新館にて月例会を行います。

夏真っ盛り、暑くなると思いますので皆さま体調などお気をつけください(^)

どうぞよろしくお祈いします！